

所管事務調査の報告

総務文教常任委員会

「七ヶ宿中学校校舎の施設状況」

平成29年2月6日、教育委員会より杉原教育次長、加藤教育専門監、木村教育次長補佐、総務課より伊藤総務課長、七ヶ宿中学校より三田村校長、石川教頭の立ち会いのもと、調査を実施いたしました。

初めに、中学校校舎の各教室や給食室、ボイラー室を確認し、続いて体育館の確認を行いました。校舎などの外部については積雪のため確認できませんでした。

校舎については、増築した部分の廊下に結露が生じて大変滑りやすくなっているため、対策が必要と思われます。給食室は、窓に雨戸用のレールがないため、網を直接窓に張りつけている状態であり、網戸を開閉することができないので支障を来しているとのことでした。暖房施設の燃料タンクは重油の量を示す計器がなく、週に1回、目視で確認している状況であり、冬期間の積雪によりふたの開閉作業などが困難であるため、整備が必要と思われます。

体育館においては、大部分のカーテンが破損していること、照明器具が交換されてからおよそ20年が経過しているためか、暗く感じました。また、天井部分にすき間のあるところが数カ所あり、強風のときはそこからほこりが落ちてくるとのことでした。

実習関係では、コンピューター教室に数台のパソコンが設置してありますが、タブレット端末が生徒全員に配備されたため、使用されなくなったパソコンについて検討が必要です。また、音楽室に2台のグランドピアノが備えつけてありますが、音楽室に2台は必要がないため、体育館へ移動して使用することや別の場所で利用する検討が必要であると思われました。また、使用不能となったロッカーや開閉できなくなった耐火金庫については処分の検討が必要であります。図書室の本は昭和50年代のものが多く、現代に合った図書の整備をしないといけないのではないかと思います。

現在の生徒数は34名で、平成29年度は24名、平成30年度は18名となり、年々生徒数は減少いたしますので、小中一貫教育も視野に入れながら、よりよい環境づくりがなされていくことを期待し、報告いたします。

総務文教常任委員会副委員長
今野 三喜男



▲七ヶ宿中学校

産業建設常任委員会

「賑わい拠点造成工事」

「森林再生プラン」「ドローンの活用状況」

それぞれ各担当課長及び担当職員を説明員として、現地での調査、ドローンについては役場前における飛行状況視察、道端林業については会議室での計画についての質疑を行いました。

賑わい拠点施設の造成工事南エリアについては、3月末の工期に合わせ、盛り土工事等の進捗と施設の敷地造成工事全般について、またミニスーパー建設予定地の地盤改良、建築物の負荷に耐えられ、安定性が保持できる十分な強度であること、消防水利などの防火設備について、現状でも十分備えはできているとの説明でありました。盛り土の高さについては、付近の住宅の高さと差が出ないように国道を基準に設定したことなどの説明を受けました。

次に、ドローンについては、本体・附属一式で約27万円での購入、無人の飛行機としてカメラの搭載やジャイロセンサーの装備などが可能で、その利用目的は災害発生現場での状況確認や、人が立ち入ることの不可能な場所や高所からの撮影など多岐にわたるものと思います。町内のイベントや町のPR等への活用と、今後町内においてこういった活用方法があるか十分検討すべきだと思います。

また、現在、ドローンの操縦可能な職員は1名だけで、今後増員する予定との説明でした。

最後に、平成29年度実施に向けて計画されております道端林業については、既存の林道等の両側の立木を伐採することで、風雪害による倒木の回避や獣害による被害軽減、道路の凍結防止による交通安全対策など多くの効果が期待されるほか、林業事業体や山林所有者の収益向上にもつながり、メリットも大きく、現在、地域おこし協力隊に候補地の選択のための調査を依頼し、今後、森林再生プランを策定して、平成29年度は町有林において町単費として試験的にスタートし、伐採した木材については集積をしてバイオマスに利用する目的でストックする考えであること、なお委員からは、道路脇の斜面の立木を伐採することで、崩壊の不安や道端林業での効果に対する疑問などの質問がありました。また、この事業については森林組合が中心となって事業を進めてほしいとの担当課の要望もありました。

以上、産業建設常任委員会の所管事務調査報告といたします。

産業建設常任委員会委員長
梅津 政志



▲ドローン